

F-35Bの岩国配備に係る検討結果について

H28年11月

◇ 総合的評価（検討結果）

- 最終取りまとめを踏まえ、航空機の騒音や運用を含めた安全性、大気・水質への影響の観点から、基地周辺住民の生活環境が現状より悪化する状態が生じるかどうかについて検証を行った。
- その結果、航空機騒音については、陸上部分において、配備前後の騒音状況にほとんど変化はなく、安全性については、機体そのものに問題は生じておらず、最先端のソフトウェアの装備により大きく向上していること、また、現行機とほぼ同様の運用が見込まれることなどから、運用面からも安全性に対する懸念は少なく、さらに、大気・水質に特段の影響は生じないことが確認できた。
- したがって、「基地周辺住民の生活環境が現状より悪化する状況は生じない」と判断されることから、今般のF-35Bの配備は、「基地機能強化」には当たらないと整理した。

1 航空機騒音

- 騒音予測コンターにおいて、陸上部分では、W値75以上の区域及び70以上の区域とも配備前後でほとんど変化がみられない。
- 県と市の騒音測定9地点での予測値についても、8地点で変化なし、1地点で低下しており、騒音の状況にほとんど変化がないことが、定量的に示された。

2 安全性（機体の安全性及び運用）

- 初納入以降、重大な事故の発生はなく、同型のエンジンが採用されているF-35Aの事故についても改善措置が図られているなど、機体そのものの安全性に問題は生じていない。
- 搭乗するパイロットは訓練を十分に重ね、操縦資格を取得した後に配備される。
- 新たな飛行経路の設定や施設整備の計画がないなど、現行機とほぼ同様の運用が見込まれており、また、影響緩和措置として訓練移転も調整される。

3 大気・水質

- 配備機数は減少し、現行機と同様の運用が見込まれることから、大気に特段の影響は生じない。
- 排水については、水質の汚染や漁業への影響がないよう、環境法令に基づき今後とも適切に対応される。

4 岩国市ユマ基地視察の状況

- 実機の3パターン（通常の着陸、短距離着陸、垂直着陸）による着陸が行われたが、体感的には、岩国基地配備のFA-18等の騒音とあまり差異はなかった。
- FA-18、EA-6B、AV-8Bなどが頻繁に離着陸を繰り返していたことから、同じ場所で他の航空機と比較ができた。
- 最新、最先端のソフトウェアの装備により、安全性が大きく向上し、離陸前にコンピュータにより機体の状態を確認する機能や二重、三重のバックアップ機能も有している。
- すべてのパイロットがFA-18やAV-8Bの他の機種を操縦していたものたちの中から審査を経て、選ばれた者である。